

■堤千代 つつみちよ ロシア革命・小説家。先天性障害で独学、最年少記録で直木賞後、次々創作し、結婚で夫に支えられるも、早世。
1917＝東京牛込に生れる。本名文子。

原敬首相暗殺1921＝4歳：先天性肺動脈弁障害のため、小学校に通学できず、自宅で独学。
読書が唯一の楽しみで、自然に文学に惹かれる。

円本時代始・1926＝9歳：共産党事件・1928＝11歳：童話「師長の琵琶」を{赤い鳥}に投稿して、鈴木三重吉に認められ、
その後も書くことが生甲斐となり投稿を続ける。

満州事変・・1931＝14歳：

芥川直木賞始1935＝18歳：

日中戦争始・1937＝20歳：

第二次大戦始1939＝22歳：*「小指」が{オール読物}に掲載され、直木賞候補作品になり、
大政翼賛会・1940＝23歳：*同誌に発表した「雛妓」「賢ちゃん」の2作と合せ、第11回直木賞を受賞。現在もなお最年少記録。
日米開戦・・1941＝24歳：「再会」「夕雀草」、
・・・・・1942＝25歳：*「柳の四季」を刊行。このほか「我が家の風」「文鳥」を新聞・雑誌に連載し人気が一段と高まった。

年金+総武装 1944＝27歳：福留理一と結婚、間もなく動員や疎開で別居を余儀なくされた。
敗戦・・・・1945＝28歳：敗戦後、東京へ戻り、結婚生活が再発足し、
千代は次々と作品を書く。夫がよきパートナーだった。

独立回復・・1951＝34歳：新聞連載小説「れい子の道」の終るころ、持病が原因で半身不随となり口述筆記で完結させ、
テレビ放送始・1953＝36歳：*「れい子の道」刊行後、
自衛隊発足・1954＝37歳：*「れい子の道」刊行後、
55年体制始・1955＝38歳：没した。
翌年、夫理一は「忘れ得ぬ「小指」の人」を発表し、遺作「憂愁の詩人横瀬夜雨」も発表された。